
DPxxxFI シリーズ

拡張コマンド印字機能

はじめに	1
設定方法	1
基本文法	2
1. 文字スケールの設定・解除	3
2. バーコード印字初期設定	4
3. バーコード印字の設定	5
4. カスタマーバーコード（郵便バーコード）印字の設定	7
5. O C R－B フォントの設定・解除	8
6. 用紙パス指定	8

はじめに

本マニュアルは、株式会社イグアス製 DPxxxFI シリーズプリンターの制御コマンドである、拡張コマンドについて解説いたします。

拡張コマンドは、バーコード印字、OCR-B フォント文字などの印字を可能にするオリジナルテキストコマンドです。

【注意】

- 本書では、コマンドの内容を分かりやすく、また区別しやすくするために、各コマンド内でダブルコーテーション（” ”）およびカンマ（，）を使用しています。

ダブルコーテーション（” ”） 実際にあてはめる文字を示します。

カンマ（，） 各内容を区切っています。

実際のコマンドにはダブルコーテーションおよびカンマは使用しません。例を示します。

[例] !#%S4440DP140FI!#%S1

- バーコード、OCR 文字、カスタマーバーコードの読み取り率は、用紙・リボン・その他の要因および読み取り環境により変動します。事前に十分なテストを行い、問題のないことを確認してください。

設定方法

本機能を利用するには、装置の設定をコマンド列に合わせた指定にする必要があります。

設定項目【ツチキワセッティ】の「カクヨウ コマンド」により 7 種類の設定が可能です。

設定項目名	設定値名	識別子	機能
カクヨウ コマンド	ムカウ	—	拡張コマンドを無効にします。 (初期値)
	!#%	!#%	左記の識別子で拡張コマンドを有効にします。
	!#% (2164)		バーコードの仕様が変わります。 バーコードの幅およびバーコード後の印刷位置が 2164 と同様になります。
	!#% (Type1)		バーコードの仕様が変わります。 バーコードの幅およびバーコード後の印刷位置が 2167 と同様になります。
	!@&	!@&	左記の識別子で拡張コマンドを有効にします。
	!@& (2164)		バーコードの仕様が変わります。 バーコードの幅およびバーコード後の印刷位置が 2164 と同様になります。
	!@& (Type1)		バーコードの仕様が変わります。 バーコードの幅およびバーコード後の印刷位置が 2167 と同様になります。

【注意】

- 拡張コマンドは、PS55, ESC/P の両エミュレーションで有効です。
- 拡張コマンドではなく、簡易ラベルコマンドを使用する場合は「ムカウ」を指定する必要があります。

基本文法

操作パネルより拡張コマンドを有効にした時点から、”!#%”あるいは”!@&”の文字列は、印字されるテキストではなく、拡張コマンドとして認識されます。

拡張コマンドの形式は、ANK文字（1バイト文字）を用いて次のようにになります。これをコマンドシーケンスと呼びます。

E S C	機能	パラメータ（またはデータ）
-------	----	---------------

[E S C]は、操作パネルより選択した3バイトの文字列で、コマンドの始まりを示します。[機能]は、コマンドの種類を指定する文字です。コマンドとして定義されていない文字を指定した場合は、すべてを印字します。

[パラメータ（またはデータ）]が無効値の場合は、すべてを受け捨てます。

・DPxxxFI シリーズ 拡張コマンド一覧表

項	コマンド	内 容
1	ESC, ” S” ,P1, P2, P3, P4	文字の拡大、設定、解除
2	ESC, ” C” ,P1, P2, P3, P4, P5	バーコード印字の初期設定
3	ESC, ” B” ,P1, [P2, P3], d1…dn	バーコード印字の設定
4	ESC, ” V” ,P1, P2, P3, P4	カスタマーバーコード印字の設定
5	ESC, ” M” ,P1	O C R – B の設定、解除
6	ESC, ” T” ,P1, P2	用紙パス指定

【注意】

- ・本機能は、ある特定の文字列（1バイト系ANKコード）を制御コマンドとして認識し、個別の印字機能を実現するものです。2バイト系漢字コードでは機能しません。
- ・文字コード列をコマンドとしていますので、プリンタードライバなどで文字自身をイメージデータに変換された場合は、コマンドとして認識できませんので、正常に動作しません。
- ・見た目には連続している文字列でも、O S やアプリケーションによっては文字と文字の間に制御コマンドを挿入する場合があり、この場合も正常に動作しません。
また、O S やアプリケーションのバージョンによっても制御が異なる場合があり、拡張コマンドを意識せず使用している場合は、問題が発生する可能性があります。

1. 文字スケールの設定・解除

E S C, " S ", P 1, P 2, P 3, P 4

- P 1 : 以降に続くパラメータの長さ (P 1 も含む) を表します。

P 1 = " 1 " 文字スケール設定を解除

P 1 = " 2 " 横方向の倍率設定

P 1 = " 3 " 横, 縦方向の倍率設定

P 1 = " 4 " 予約

上記以外を指定した場合は、" 1 " の指定となります。

- P 2 : 横方向の倍率を指定します。

P 2 = " 1 " 1 倍

P 2 = " 2 " 2 倍

P 2 = " 3 " 3 倍

P 2 = " 4 " 4 倍

P 2 = " 5 " 5 倍

P 2 = " 6 " 6 倍

P 2 = " 7 " 7 倍

P 2 = " 8 ", " 9 ", " A ", " B ", " C ", " D ", " E ", " F " 8 倍

上記以外を指定した場合は、" 1 " の指定となります。

- P 3 : 縦方向の倍率を指定します。

倍率の指定方法は、P 2 に準じます。

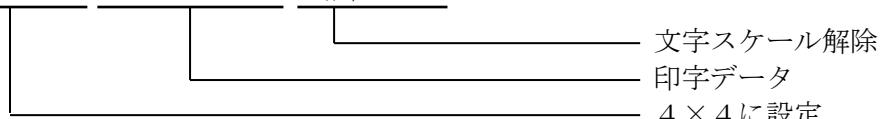
- P 4 : 予約

無視されます。

【注意】

- ・本コマンドによる指定は、再設定や解除まで継続して有効です。
- ・同一行における複数の指定(変更)も可能です。
- ・縦方向拡大は、現在行から下への拡大となります。
- ・垂直方向への拡大指定の場合は、次行以降への重ね印字も可能です。
- ・文字のない部分(スペースコード)についても指定した拡大および文字ピッチは有効です。
- ・縦方向拡大でボトムマージンを越える場合は、超えた分は次のページへ印字されます。

[例] ! # % S 4 4 4 0 D P 1 4 0 F I ! # % S 1



印刷結果

DP140FI

2. バーコード印字初期設定

E S C, " C", P 1, P 2, P 3, P 4, P 5

● P 1 : 予約

無視されます。

● P 2 : 縦方向の倍率 (バーコードの高さ) を指定します。

(24/180 インチを基準とします。)

P 2 = " 1 "	1 倍
P 2 = " 2 "	2 倍
P 2 = " 3 "	3 倍
P 2 = " 4 "	4 倍
P 2 = " 5 "	5 倍
P 2 = " 6 "	6 倍
P 2 = " 7 "	7 倍
P 2 = " 8 "	8 倍
P 2 = " 9 "	9 倍
P 2 = " A "	10 倍
P 2 = " B "	11 倍
P 2 = " C "	12 倍
P 2 = " D "	13 倍
P 2 = " E "	14 倍
P 2 = " F "	15 倍

上記以外を指定した場合は、" 1 " の指定となります。

● P 3 : 予約

無視されます。

● P 4 : 予約

無視されます。

● P 5 : バーコード下の文字 (添え字) の有無を指定します。

P 5 = " 0 " 印字しない

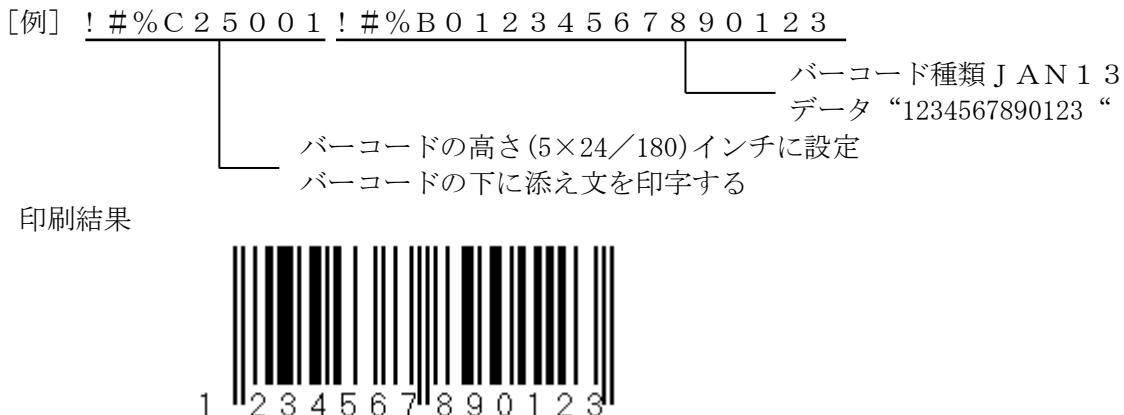
P 5 = " 1 " 印字する

上記以外を指定した場合は、" 0 " の指定となります。

文字種は、O C R - B で印字されます。

【注意】

- ・チェックデジットを自動的に付加しません。付加して設計してください。
- ・現在行から下への印刷となります。
- ・本コマンドは、バーコード印字の設定コマンドの前に指定してください。



3. バーコード印字の設定

ESC, "B", P1, [P2, P3], d1………dn

- P1 : バーコードの種類を指定します。

P1 = "0" J A N 1 3 術

P1 = "1" J A N 8 術

P1 = "5" N W - 7

P1 = "6" C O D E 3 9

上記以外を指定した場合は、"0" の指定となります。

- [P2, P3] : d1………dn のバーコードデータ数nを16進数で指定します。

P2, P3 の有効範囲：“1≤n≤50” (16進数: 01≤n≤32)

上記以外を指定した場合は、ESCからP3までを受け捨てます。

J A N 1 3 術, J A N 8 術の指定時は、P2, P3は省略してください。

【注意】

- ・バーコードは種類によって使用できる文字（データ）が決まっています。文字の中に無効な文字があった場合は、ESCからdnまでを無効として受け捨てます。
- ・P2, P3で指定した数がd1～dnのデータ数と一致しない場合は、P2, P3で指定した数をデータとして扱います。
- ・バーコードが右マージンを越える場合は、右マージン内の印字を行い復帰、改行を行い、それ以降のデータは受け捨てます。バーコードの下に添え字の設定がある場合でも添え字の印字はしません。
- ・縦2倍以上の印字でボトムマージンを越える場合は、超えた分は次のページへ印字されます。
- ・バーコードを含む行に罫線がある場合は、罫線はバーコードに関わらず指定行に印字します。
- ・本コマンドで指定したバーコード行は、印字速度の設定／切替えコマンドに関係なく、1/180インチピッチで印字します。
- ・N W - 7, C O D E 3 9 のスタート／ストップコードを付加して設計してください。
- ・スタート／ストップコードの組み合わせは、【注意】後に添付の表を参照してください。表の項目にあげてあるスタート／ストップ文字の組み合わせを表の中から各々1文字を使用します。
- ・N W - 7は、装置の仕様上、文字の読み替えを行っています。【注意】後に添付の表を参照してください。
- ・バーコードの読み取り率は、用紙・リボン・その他の要因および読み取り環境により変動します。実際のご使用にあたっては事前に十分なテストを行い、問題のないことを確認してください。

○NW-7 スタート／ストップコード

項	スタート文字	ストップ文字
1	a, A	a, A, t, T
2	b, B	b, B, n, N
3	c, C	c, C, *
4	d, D	d, D, e, E

○CODE 39 スタート／ストップコード

項	スタート文字	ストップ文字
1	*	*

○NW-7 文字の読み替え

指定文字	印字文字
a, A	a
b, B	b
c, C	c
d, D	d
t, T	t
n, N	n
e, E	e

4. カスタマーバーコード（郵便バーコード）印字の設定

E S C, " V" , P 1, P 2, P 3, P 4

- P 1 : バーの大きさを指定します。

P 1 = " 1 " 小 (9 ポイント相当)

P 1 = " 2 " 中 (10 ポイント相当)

P1="3" 大 (11.5ポイント相当)

上記以外を指定した場合は、”2”の指定となります。

- P 2 : バーの下にバーデータの内容をOCR-Bフォントで印字します。

P 2 = "0" 印字しない

P 2 = " 1 " 印字する

上記以外を指定した場合は、”0”の指定となります。

- P.3 : 予約

→ 3. 了承

- ### ● P 4 : データを指定します。

範囲: 数字(0~9), 英字(A~Z, a~z), ハイフン(-), @ (余り桁)

範囲：数字（0～9），大字（A～Z，a～z），構成：新郵便番号（7桁）+住所表示番号（1～3桁）

【注意】

- 注意

 - 必ず20桁のデータを作成し、満たない部分は”@”で埋めてください。
 - 新郵便番号部は数字のみです。
 - 新郵便番号部の直後（8桁目）には、ハイフン（-）を入れてはいけません。
 - 英字は大文字になります。
 - 英字は1文字2桁でカウントしてください。
 - 20桁目の英字は1桁だけバーコード化されます（添え文字は印字されません）。
 - チェックデジットは自動的に付加されます。

〔例〕 〒211-20013 神奈川県川崎市幸区堀川町580 ソリッドスクエア西館8F

B 0 1

└ 残り枠 (20 = 10 ≡ 10 枠)

住所表示番号(数字ハイフン3桁)

—住所表示番号 (数)
—新郵便番号 (7桁)

—大きさ = 由添え文字なし 1

印刷結果



【注意】

- ・本コマンドで指定したバーコードを含む行は、印字速度の設定／切替えコマンドに関係なく1／180インチピッチで印字します。
 - ・カスタマーバーコードの読み取り率は、用紙・リボン・その他の要因および読み取り環境により変動します。事前に十分なテストを行い、問題のないことを確認してください。

5. OCR-Bフォントの設定・解除

E S C, " M" , P 1

OCR-Bフォントを設定、解除します。

● P 1 : 文字フォントの種類

P 1 = " 0 " 通常文字

P 1 = " 1 " OCR-B

上記以外を指定した場合は、" 0 " の指定となります。

【注意】

- OCR文字読み取り率は、用紙・リボン・その他の要因および読み取り環境により変動します。実際のご使用にあたっては事前に十分なテストを行い、問題のないことを確認してください。

6. 用紙パス指定

E S C, " T" , P 1, P 2

用紙パス指定を行います。

● P 1 : 用紙パス指定

P 1 = " 0 " 前連帳モードに切り替える

P 1 = " 1 " 後連帳モードに切り替える

P 1 = " 2 " 単票（手差し）モードに切り替える

P 1 = " 3 " C S F モードに切り替える

P 1 = " 6 " 用紙カット位置まで用紙送りする

● P 2 : 予約

" 0 " を指定してください。

【注意】

- 下記の場合は、本コマンドは受け捨てられます。
 - パラメータ P 1 に上記以外の値を指定した時。
 - 指定した用紙パスが現在選択されているとき。
 - 前 C S F 搭載時に P 1 = 0 (前連帳モード) を指定した時。
 - 前後連帳モード以外または既に用紙カット位置にある状態で P 1 = 6 を指定した時。
- C S F 未搭載時に P 1 = 3 (C S F モード) を指定した場合は、単票（手差し）モードに切り替えます。
- 改行量が 7.5LPI よりも大きい場合に白紙が出力されることがあります。